

送りがなプリント はってん①(ない・ます・よう)

なまえ

小6／ない・ます・よう の 形(2／5)

ひづけ

同じ ことばを ない・ます・よう の 形に する

れい 延びる(のびる)

ない

延びない

ます

延びます

よう

延びよう

かん字の あとの 送りがなは、形が かわっても 「もとの かたちの 送りがなの はじまり」から 書く。

ことばごとに、ない・ます・よう の 形に なるように かん字の あとに 送りがなを 書こう。

もとの かたち

ない

あつい から まどは しめない。

閉

閉める

ます

よる ねる まえに まどを しめます。

閉

(しめる)

よう

さむく なって きた。まどを しめよう。

閉

もとの かたち

ない

かれは ひとの ことばに したがわない。

従

従う

ます

わたしたちは きまりに したがいます。

従

(したがう)

よう

みんなで せんせいに したがおう。

従

もとの かたち

ない

この みせは ひとが おとずれない。

訪

訪れる

ます

はるは ことりが にわを おとずれます。

訪

(おとずれる)

よう

こんど はくぶつかんを おとずれよう。

訪

もとの かたち

ない

かれは まちがいを みとめない。

認

認める

ます

わたしは すなおに みとめます。

認

(みとめる)

よう

まちがえたら すなおに みとめよう。

認

できたら:3つの 形を 声に 出して、かん字の あとが どこから かわるか たしかめよう。



送りがなプリント はってん①(ない・ます・よう)【こたえ】

なまえ

小6／ない・ます・よう の 形(2／5)

ひづけ

同じ ことばを ない・ます・よう の 形に する

れい 延びる(のびる)

ない

延びない

ます

延びます

よう

延びよう

かん字の あとの 送りがなは、形が かわっても「もとの かたちの 送りがなの はじまり」から 書く。

ことばごとに、ない・ます・よう の 形に なるように かん字の あとに 送りがなを 書こう。

もとの かたち

ない

あつい から まどは しめない。

閉 めない

閉める

ます

よる ねる まえに まどを しめます。

閉 めます

(しめる)

よう

さむく なって きた。まどを しめよう。

閉 めよう

もとの かたち

ない

かれは ひとの ことばに したがわない。

従 わない

従う

ます

わたしたちは きまりに したがいます。

従 います

(したがう)

よう

みんなで せんせいに したがおう。

従 おう

もとの かたち

ない

この みせは ひとが おとずれない。

訪 れない

訪れる

ます

はるは ことりが にわを おとずれます。

訪 れます

(おとずれる)

よう

こんど はくぶつかんを おとずれよう。

訪 れよう

もとの かたち

ない

かれは まちがいを みとめない。

認 めない

認める

ます

わたしは すなおに みとめます。

認 めます

(みとめる)

よう

まちがえたら すなおに みとめよう。

認 めよう

つまずきやすいところ

従わない・従います・従おう … おわりの 音は あ・い・お と かわるが、漢字は「従」のまま。

閉めない・閉めます・閉めよう … 音は かわらず、もとの 送りがなの「め」から 送る。

採点：線の はんいだけで よい(文の おわりの「。」までは 書かなくて よい)。